

「二高白神プロジェクト」 第2回招へい講座

平成30年9月7日（金）の総合的な学習の時間に「二高白神プロジェクト 第2回招へい講座」を実施いたしました。

本校では総合的な学習の時間を中心に、世界自然遺産「白神山地」の魅力を伝えることのできる生徒を育成する「二高白神プロジェクト」に取り組んでいます。

その活動の一つ、外部の有識者からの白神山地に関する講義「招へい講座」2回目は、光久寺住職 成田幸広氏による講座でした。

講師 光久寺住職 成田 幸広 氏
演題 「日本人の自然観と白神山地」



講師の成田幸広先生



8年前にも講演に来ていただいています

講師の成田先生は元高校教師で、山岳部の顧問をしていました。ブナの森が続く白神山地の素晴らしさに魅せられ、退職後も月に1回は白神の山頂を目指して登っているそうです。講演では最初に「白神山地とはどんなところか」話をしてくださいました。白神山地は秋田県北西部と青森県南西部にまたがる約13万ヘクタールに及ぶ広大な山地帯であり、ここには人為の影響をほとんど受けていない世界最大級の原生的なブナ林が分布しています。この中に多種多様な動植物が生息・自生するなど貴重な生態系が保たれており、1993年12月に世界遺産（自然遺産）に登録されました。先生は白神山地の四季折々の自然の姿を写真を紹介しながら、「この山は全国の人のあこがれの山である」と力説されておりました。



メモを取りながら真剣に聴いています



白神山地の広さを地図で示しています

先生のお話の概要は次のとおりです。

- ・ 矢立峠まで白神山地といわれているほど広大である。原始的なブナ林の生態系がそのまの姿で広範囲に残っている。
- ・ 白神山地を守るために長く激しい反対運動を継続してきた結果、今の白神山地がある。大変な思いをして白神山地が守られてきた。
- ・ 西洋文明は砂漠の中で発展してきたが、日本文明は自然を支配する文明で、自然が豊かでその恵みを受けて発展してきた。森や樹木は神聖なものであり、日本は木に神が宿るといわれている。奈良の仏像は金銅仏像、京都の仏像はほとんどが木彫り仏像である。

興味深く、とてもわかりやすいお話で、生徒も職員もみな熱心に聞き入っていました。



先生に質問をする生徒



質問に丁寧に答えていただきました

最後に代表生徒が今回の講演で学んだことを述べ、成田先生に感謝の気持ちを表しました。

～～ 生徒の感想から 一部を紹介 ～～

白神山地は、西側が高く東側が低いということを初めて知り、まだまだ白神山地について知らないことがたくさんあると分かりました。その他にも、ブナの花が5月に咲くことやブナの実が秋頃に熟すということも分かりました。驚いたことは、ブナは8トンの水を蓄えることができることです。

デンマークでは「ブナがある限り我が国は滅びない」といわれているそうです。日本では「木には神が宿る」といわれているように、人々と白神山地のつながりについて知ることができました。14日に行われる白神PJフィールドワークでは、白神山地の良いところをたくさん見つけられるようにしたいです。

2300万年前は海にあって、隆起して陸地、山地になったことが分かりました。今でも年に1mmずつ隆起していることが分かりました。京都と奈良の仏像の違いも分かりました。修学旅行で京都の仏像を観に行きたいなと思いました。

様々な自然観を学ぶことができました。14日のフィールドワークでは意識してみたいと思います。昔も現在も木や森に助けられているので、大切にしていかなければならないと再確認できました。

仏教と白神山地とつながっていてとてもためになった。「自然は神であり仏である」という言葉を聞いてまさにその通りだと思いました。木には神が宿るといわれています。秋田県人として白神山地を大切に守って行こうと思います。

自分が知っているユネスコ世界遺産としての「白神山地」は長く激しい反対運動の結果が実ったものだと思うとなかなか易しいだけの歴史ではなかったと思う。しかし、その結果が今の秋田を代表する場所となった。反対運動をした方たちを誇りに思う。